35 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2021年1月3日号

編集／毎日新聞社販売局D.クリエーションセンター

ストーリー

松葉づえのカメラマン

10日（日）＝1面、ストーリー面

カメラマンのシギー吉田さん（56）＝本名・吉田茂樹さん＝は栃木県立佐野高ラグビー部員だった17歳の春、スクラムの練習中に頸椎（けい・つい）を損傷しました。高校日本代表の登竜門となる合宿中の出来事です。搬送された病院で「練習に戻らなきゃいけないんだ」とわめき散らした記憶があるといいます。

シギーさんは諦めず松葉づえで「花園」を訪れ、単身の米国留学、東日本大震災の被災地での撮影――も果たしました。いつしかつえは「相棒」に。そして54歳の誕生日。選手生命を絶たれたあのスクラムで、正面で組み合ったライバルから36年ぶりに連絡が来ます。

特集ワイド

サブカル巡礼2021

シン・ウルトラマン

4日（月）＝夕刊特集ワイド

かつて時代を席巻し、あるいは今の世を彩るサブカルチャーが2021年、メモリアルイヤーを迎えます。新たに生まれる作品は、コロナ下の日本人にどう響くのでしょうか。新年の連載「サブカル巡礼2021」第1回のテーマは、今年初夏に公開される映画「シン・ウルトラマン」。ウルトラマンの造形の秘密をひもときながら、コロナ下でデビューする新しいヒーローの役目とは何なのか、初代ウルトラマンのスーツアクターだった俳優の古谷敏さん＝**写真**＝ら関係者に取材しました。

そこが聞きたい

五輪の年へ　室伏広治・スポーツ庁長官に聞く

5日（火）＝オピニオン面

新型コロナウイルスで今夏に延期された東京オリンピック・パラリンピックに向け、選手は難しい調整を強いられています。陸上男子ハンマー投げで五輪に４大会連続で出場し、昨秋からスポーツ行政のかじ取りを担うスポーツ庁の室伏広治長官＝**写真**＝には、コロナに立ち向かう選手の姿はどう映っているのでしょうか。コロナ禍のスポーツ行政などについて聞きました。

コロナ第3波を生き残るための家計とは

9日（土）＝くらしナビ面

新型コロナウイルスの感染拡大により、経済が大打撃を受けています。閉店せざるを得なくなった自営業者やリストラされた会社員、仕事を減らされたパートタイマー……。多くの人たちが収入面でダメージを受けています。この難局をどう乗り切ればいいのか。経済ジャーナリストの荻原博子さん（66）に家計の防衛策を聞きました。

竹橋の窓辺から

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年はご愛読ありがとうございました。今年も、皆様の日々の暮らしの側に毎日新聞を置いていただければうれしいです。

今年の干支は丑年。「牛の歩みも千里」という言葉のように、少しずつでも前に進んで良い一年になるように願っています。また、丑年は子年にまいた種が芽を出して成長する年なのだそうです。昨年から始まったこの「記事すごい」も、さらに役立つ情報をお届けできるよう頑張ります！

（宮澤暁子）

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。